

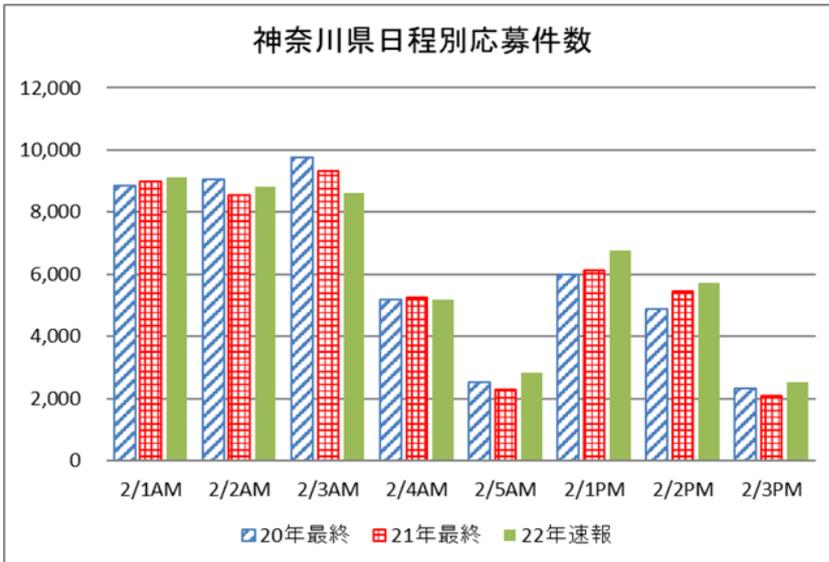
神奈川県私国立中入試概況

1. 概況 応募者数はやや増えているものの、早期決定志向が目立つ

神奈川県内の公立小6児童数は義務教育学校を含んで約 75,100 名で、昨年より 900 名あまり減っています。2月28日現在の県内の中学入試の応募総数は、国立・私立・公立一貫校の合計では約 51,800 件で、昨年最終の約 51,000 件より増加、率では約 2%の増加です。入試結果が未公表の学校や神奈川県では各校合同のコロナ追試もありますが、本稿執筆時点ではまだ結果が出ていません。最終的にもう少し上乗せされます。

2月28日集計の時点では、実際の受験者数は昨年よりやや減っています。コロナ対応の追試をはじめ、今後公表される入試結果もありますが、受験者数は最終的に昨年並み程度かもしれません。合格者数は約 15,000 名程度で、昨年より若干増えています。合格者数にはコース制の上位コース入試での入りやすいコースへのスライド合格や、特待入試での一般合格を含んでいない学校がありますから、「入学できる」合格者数はもっと多くなりますが、平均の実質倍率は昨年とあまり変わらない結果になりそうです。ただ、あくまでも平均ですから、学校別では人気の高い学校もあります。

日程別の応募状況を見えます。上のグラフです。県内で実施される地方校(早稲田系や日大系)の入試結果は含んでいません。東京23区や多摩地区の項では2月1日午前の応募者数が最多ですが、神奈川県では昨年まで3日午前が最多でした。今年は3日午前が約700件、8%減と大きく減っていて、差は小さいものの、2日午前よりも少なくなりました。3日午前が公立一貫校の検査日ですが、公立一貫校だけでなく私立中学も減っています。1日午前は2%、2日午前は3%増えましたが、3日午前まで挑戦を続ける受験生が減っています。4日午前は昨年並み、5日午前は約500件増え



ましたが、実数では少ないのが実情です。

午後入試では、1日午後の増加が目立ちます。約600件、10%の増加で、早期決定志向の強まりが表れています。2日午後と、小規模ですが3日午後も増えています。

次に、難易度別での応募状況を見えます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA~Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外していません。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とは異なる場合があります。グループの学校はグラフの下に一覧で表示しています。

男子は今年もBグループが最多で、昨年より約300件、3%増えています。突出して多いのが目立ちます。

2番目はAグループ、3番目がCグループで、Aグループが少し多くなっています。Aグループ、Cグループとも厳密には減っていますが、昨年並みとってよいでしょう。難関校や中堅校よりも上位校、という人気動向が表れています。Dグループは約500件増加、Eグループは減っていて、東京23区とは傾向が異なり、あまり中学受験のすそ野は拡大していないようです。

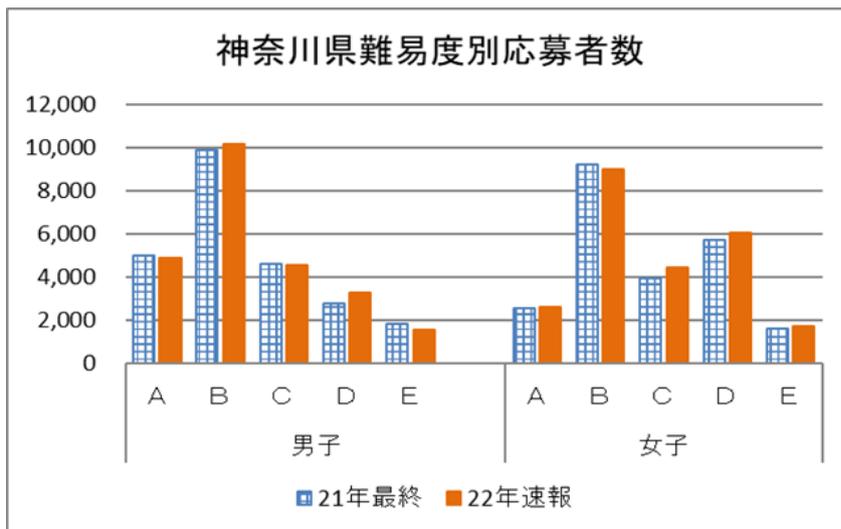
女子もBグループが最多ですが、約200件減っています。女子はBグループの次がDグループで約300件増加、その次がCグループで約500件増加しています。安全志向の強まりで、BグループからCグループ、CグループからDグループと、受験生が流れているようです。AグループとEグループは、厳密には増えています。昨年並みとってよいでしょう。

2. 川崎・横浜地区

<男子校>

聖光学院は特に入試に変更点はありません。2月2日の1回は、以前から後述の栄光学園との間で受験生の流出入が見られ、一方が増えるともう一方が減る関係が見られましたが、傾向が変わってきました。一昨年は聖光学院の応募者が増加、昨年は減っていて、今年は若干増えたものの、昨年並みとってよい水準です。全体的に安全志向が強くなった影響です。4日の2回は、一昨年は応募者が増えていましたが、昨年は減少、今年は昨年並みで、1月の帰国生入試も昨年並みの応募者数でした。帰国生入試の2科と1回は昨年並みの合格最低点、帰国生入試の算英と2回は少し上がっています。もともと高難度ですから、特に難化はしていないでしょう。

浅野は、一昨年は前年並みの応募者数で、昨年、今



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で神奈川県私立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…浅野・栄光学園・慶應湘南藤沢・慶應普通部・聖光学院・洗足学園
・フェリス女学院
- B…青山学院横浜英和・鎌倉学園・鎌倉女学院・神奈川大附属
・公文国際学園・サレジオ学院・湘南白百合学園・清泉女学院・逗子開成
・中央大学附属横浜・桐蔭学園・日本女子大附属・日本大学(G L)
・法政大学第二・森村学園・山手学院・横浜共立学園・横浜雙葉
- C…カリタス女子・関東学院・湘南学園・桐光学園・日本大学(A F)
・日大藤沢・横浜国大附属横浜・横浜女学院(国際教養)
- D…神奈川学園・関東学院六浦・相模女子大学・自修館・聖セシリア女子
・捜真女学校・鶴見大附属(難関)・東海大付属相模・藤嶺学園藤沢
・聖園女学院・横須賀学院・横浜国大附属鎌倉・横浜女学院(アカデミー)
・横浜創英(サイエンス)
- E…アレセア湘南・大西学園・鎌倉女子大学・函嶺白百合・北鎌倉女子
・聖ヨゼフ学園・聖和学院・相洋・橘学苑・鶴見大附属(進学)・武相
・緑ヶ丘女子・横浜・横浜翠陵・横浜創英(本科)・横浜隼人
・横浜富士見丘学園

年とやや減っています。2月3日入試ですから、受験生の「早じまい」が影響しているのでしょうか。実際の受験者数、合格者数も少し減っています。合格最低点は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

サレジオ学院も入試に特に変更点はありません。2月1日午前のAの応募者数は一昨年が少し減っていて、昨年は増加、4日午前のBは一昨年が少し減っていましたが、昨年は増加していました。しかし、今年はA・Bとも減っています。昨年はA・Bとも合格最低点が

上がりましたが、今年はAがやや緩和、少し入り易くなったかもしれません。Bは昨年並みで難度に変化は見られません。

慶應普通部は人気が安定していて、近年は応募者数の変化が少なく、昨年とあまり変わっていません。中学受験が拡大して受験生が増えていますから、安全志向の強まりで、自信がないと選ばれなくなっているのかもしれませんが。合格最低点は公表されていませんが、今年も補欠を発表していますから、難度は昨年並みでしょう。

横浜は、併設の高校が共学化で大人気になり、男子のみの中学募集を一旦縮小しています。一昨年は帰国生も含めて7回あった入試を3回に縮小、小規模な入試になりました。昨年、今年も同様です。武相も小規模な入試の学校で、入試に特に変更点はありません。昨年から12月の帰国生入試と2月の午後入試を取りやめています。今年も小規模な入試で、横浜、武相とも難度は昨年並みでしょう。

＜女子校＞

横浜市内の神奈川女子御三家から。フェリス女学院の応募者数は一昨年在り減りましたが、昨年、今年と増えていて、県内女子校トップの人気です。合格最低点は公表されていませんが、実質倍率が上がったため、やや難化したかもしれません。

横浜雙葉も応募者数は一昨年在り減少、昨年は前年並みでしたが、今年は少し増えています。ただ、小規模な入試になっていて、「選ぶ人が選ぶ」入試になっています。合格最低点は上がっていて、出題内容との関連はありますが、やや難化したかもしれません。

横浜共立は2月1日のA、3日のBの2回の入試を行っています。Aは、一昨年は応募者が増加、昨年は前年並みで、今年は減っています。ただ、合格最低点は昨年並みで、難度に変化は見られません。挑戦受験生が少し減ったための応募者減でしょう。Bは、一昨年在り日曜日を避けた日程移動から戻ったことで応募者が大幅に減り、昨年は少し増えて、今年はAと同様、減っています。合格最低点は上がっていて、出題難度との関係はありますが、少し難化したかもしれません。応募者の減少も、受験生が絞られたためでしょう。

神奈川学園は入試の設定に変更はありません。各回次合計の応募者数が一昨年、昨年と増加が続きまし

が、今年は各回次とも減っています。人気が一段落したのでしょうか。合格最低点は、2月1日午後が昨年並みで難度に変化が見られなかったほかは、各回次とも下がっていて、少し入り易くなったようです。

横浜女学院は国際教養とアカデミーの2コース制で、本稿執筆時点でまだ終了していない入試があります。2018年のコース制実施で各回次合計の応募者数が大幅に増加、特奨入試も新設したこともあって、一昨年在り増加が続きまし。昨年は減りましたが、今年は再び大きく増加、総計3,000名を超えています。複数出願も多く、何としても横浜女学院に入学したいという受験生が増えています。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

捜真女学校は2月1日午後のA2入試を同時並行のスカラ1回に統合、2月12日のD入試を取りやめました。各回次合計の応募者数は、隔年的に変化していて、今年は順番通り減っています。しかし実際の受験者数は昨年とほぼ同じで、同校にぜひ、という受験生が多いことがわかります。合格最低点は1日午後のスカラ1回が昨年並み、4日午後のCは少し下がっていますが、他の回次は上がっています。出題内容との関係もありますが、少し難化したようです。

川崎市内では、洗足学園は曜日の関係で帰国生入試日程を変更しています。昨年まで応募者数に隔年現象が見られ、昨年は各回次とも少し減っていましたが、今年は1月の帰国生入試が減少、2月1日の1回は微増、2日の2回と5日の3回は増加しました。帰国生入試はコロナ禍の影響で減ったのでしょうか。1~3回は隔年の順番通り増えたこととなります。合計では昨年並みでした。合格最低点は帰国生の国算英が上昇、3回も少し上がりましたが、他の回次は昨年並みです。3回はやや難化したかもしれませんが、他の回次は昨年並みの難度でしょう。

カトリック校のカリタス女子は帰国生入試の日程を変更しました。一昨年在り各回次合計の応募者が少しずつ減っていましたが、昨年は増加、今年は大きく増加して人気が上がっています。昨年に続いてどこか特定の回次が増えたのではなく、どの回次も増えています。合格最低点は2月3日午前の4回が小幅なものの、各回次とも上がっていて、全体的に少しずつ難化したようです。

日本女子大附属の各回次合計の応募者数は一昨年

が大きく増加、昨年も少し増えていましたが、今年は2月1日の1回・帰国生、3日の2回とも減っています。人気が一段落したのでしょうか。ただ、1回の合格最低点は昨年並みだったものの、2回は上がっていて、少し難化したようです。応募者の減少は受験生が絞られたためだったようです。

<男女校>

まず横浜市内から。公文国際学園は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と前年並みが続きましたが、今年はやや減っています。各回次とも女子が少し減っていて、比較的高難度ですから、安全志向が強い受験生が他校に流れたのかもしれませんが。合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、昨年とあまり変わらない難度だったようです。

山手学院は、入試日程や科目に変更はありません。各回次合計の応募者数は隔年的に変化していて、今年は少し減りました。2月1日午後の特待選抜と2日午後のBが減少の中心です。6日午前の後期の合格最低点は昨年並みですが、他の回次は上がっていて、出題内容との関係はありますが、やや難化したようで、応募者の減少も受験生が絞られたためでしょう。

桐蔭学園はアクティブラーニング型入試を2月1日午前から5日午前に、算数1科入試や英語と算数の入試を1日午後から2日午後に、3日午前の4科入試を5日午前に移して2科選択を追加するなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年在やや減、昨年は増加、今年は少し減っていて、隔年的な変化です。合格最低点は1日午後と2日午後の2教科でやや下がり、3日から5日に移った4科が上昇していますが、出題内容や得点分布の影響でしょう。他の回次や科目選択は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

中大附属横浜は入試に特に変更点はありません。一昨年は各回次合計の応募者数が少し減っていて、昨年は微増、今年も小幅の増加です。応募者数の変動が小さいので、人気は安定しています。合格最低点も昨年並みで、難度も変わっていないようです。

青山学院横浜英和は、2月2日午後のB、3日午後のCを4科から2科に変更しました。2教科に変更しても、同校の受験生は4教科で準備してきた受験生が多数派になるだろう、という見込みからの変更です。

各回次合計の応募者数は、一昨年在前年並み、昨年は減っていて、今年も少し減っています。もともと2016年に青山学院の系列化、2018年に共学化した学校で、系列化以来人気が上がって難化が続いていましたから、一段落したことになります。合格最低点は1日午前のAがやや下がっていますが出題内容との関係でしょう。BとCは科目が変更されていますから単純比較はできませんが、得点率は昨年並みで、各回次とも難度は変わっていないようです。

神奈川大附属は入試日程や科目に特に変更はありません。昨年12月に帰国生入試、2月1日午後2科入試を新設するなど、入試の設定を大きく変更しています。一昨年まで隔年で各回次合計の応募者数が増減していましたが、昨年は入試を大きく変更したにも関わらず合計の応募者数はやや増えた程度でした。しかし欠席が減って実際の受験者数は大きく増加、受験生の動きが変わりました。今年は1日午後の1回、2日午前の2回、4日午前の3回とも応募者が増えていて、合計では大きく増えました。合格最低点は1・2回は昨年並みですが、3回は上昇、少し難化したようです。

森村学園は曜日の関係で帰国生入試の日程を1日早めました。各回次合計の応募者数は、一昨年は少し減り、昨年は増加、今年も小幅ですが減っていて、隔年的な変化です。ただ、合格最低点は各回次ともやや上がっています。出題内容との関係はありますが、受験生が絞られたための応募者減で、難度面は少し難化したのかもしれませんが。

日吉の日本大学は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更したほか、探究学習・体験学習を深度化することなどを目的としてNスタンダードコースをアカデミックフロンティアコースに改編しました。グローバルリーダーズとアカデミックフロンティアの2コース制です。両コース各回次合計の応募者数は、一昨年は増加、昨年は減っていて、今年もやや減っています。2コース制にしてから難化傾向が見られましたから、少し敬遠傾向が出ているようです。合格最低点は2月1日午後がやや下がり、5日午前が少し上がっていますが、他の回次は昨年並みです。出題内容の影響がありますから、難度はあまり変わっていないと思われます。

関東学院は2月6日午前の2期を5日午前に移しました。応募者数は各回次合計で一昨年は前年並み、昨

年は少し減っていましたが、今年は全回次で増加したため、合計では大きく増えました。人気が上がっています。合格者数が増えています。実際の受験者数の増加ほどは増えておらず、その分実質倍率もアップしています。合格最低点は、1日午前の1期Aが上昇、1日午後の1期Bと5日午前の2期は下がり、3日午前の1期Cは昨年並みです。出題内容との関係はありますが、実質倍率が上がっていることから、全体的には少し難化したようです。

系列校の関東学院六浦は帰国生入試の日程が一部変更されています。各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年と増えていましたが、今年は昨年並みです。実際の受験者数も昨年とほぼ同じです。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、難度はあまり変わっていないようです。

横浜創英は昨年新校舎が完成、新校長による新しい教育プログラムの実施で、イメージが大きく変わっています。高校募集も行っていて、今までは高校入学生と中学入学生が高校で混合する体制でしたが、新たに中高一貫のサイエンスコースを新設、従来のコースは本科とするといった大きな変更がありました。入試の設定でも2月1日午前の適性検査型を総合問題の新科目サイエンスに変更、2月1日午前、2日午前、6日午前の入試に算数1科を追加しました。各回次合計の応募者数は昨年までも増えていて、特に昨年は大きく増えていましたが、今年も約2倍と大幅に増加、1,100名を超えました。合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、補欠も出ていて、本科は昨年より難化したようです。サイエンスコースはさらに高難度だったでしょう。

横浜創英の系列校、横浜翠陵は英語型の入試を英語資格の1教科入試に変更しました。各回次合計の応募者数は一昨年まで連続して減っていましたが、昨年は大きく増加、今年も少し増えています。グローバル化対応に力を入れていることで、期待する受験生も多いようです。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度はあまり変わっていません。

鶴見大附属は難関進学と進学の2コース制で、2月1日午前の進学1回、2日午前の同2回を2科から2科4科選択に変更しました。各回次合計の応募者数は、昨年まで少しずつ減少が続いていましたが、今年は増加、人気が反転上昇しました。合格最低点は本稿執筆

時点で未公表ですが、各コースの難度はあまり変わっていないようです。

横浜隼人は2月6日午前入試を5日午前に前倒しにしました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と少し減っていましたが、今年は各回次とも増えて、人気に戻ってきました。実際の受験者数や合格者数も増えていて、本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、各回次の難度はあまり変わっていないようです。

横浜富士見丘学園は2月3日午前入試を英語を含む2科4科選択に変更しました。女子校から男女別学に移行して4年目です。別学移行時と一昨年は各回次合計の応募者が増えていましたが、昨年は減少、今年は再び増えています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、難度面は各回次とも昨年とあまり変わっていないようです。

一昨年女子校から共学化した聖ヨゼフ学園は小規模な入試の学校ですが、一昨年から国際バカロレアのMYP(中等教育プログラム)を導入しています。国際バカロレアは注目されていますが、日本のカリキュラムを基準にするとかなり特殊な面もありますから、「選ぶ人が選ぶ」面が強く、一昨年、昨年は各回次合計の応募者が増えていましたが、今年は減っています。合格最低点は上下が目立つ回次もありますが、得点分布の影響が強く、総じて難度は昨年並みでしょう。

橘学苑も小規模な入試の学校です。今年は適性検査型を2月1日午前に新設しました。本稿執筆時点でまだ実施していない入試もありますが、各回次合計の応募者数は一昨年少減、昨年は一昨年並み、今年は少し増えました。難度面もあまり変わっていないようです。

国立の横浜国大横浜は、一昨年は応募者が減少、今年は帰国生は減ったものの一般は増加して合計では少し増えています。今年も再び減っています。帰国生はコロナ禍の影響があるので別として、一般は隔年的な変動です。実際の受験者数も減っていますが、合格者はかなり絞っていて、例年合格最低点は未公表ですが、やや難化したかもしれません。

次に川崎市です。法政大学第二は、帰国生入試日程を曜日の関係で変更しただけです。男子は2月2日午前の1回が若干応募者が増えたほか、帰国生入試と4日午前の2回もほぼ昨年並みの応募者数です。女子

の募集定員が少ないことで、少し敬遠されているのかもしれませんが。合格最低点は男女、1・2回とも下がっています。出題内容との関係はありますが、少し入り易くなったようです。

桐光学園は男女別学校です。特に入試に変更点はありません。各回次男女合計の応募者数は、一昨年が前年に続いて増加、昨年は減っていて、今年も減りました。難化傾向だったため、少し敬遠されたのかもしれませんが。実際の受験者数、合格者数も減っています。帰国生入試はおおむね昨年並みの合格最低点ですが、2月1日午前の1回の男女は合格最低点下がっていて、出題内容との関係はありますが、少し入り易くなったかもしれません。4日午前の男子は上がっていて、やや難化した可能性があります。他の回次は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

なお、大西学園は本稿執筆時点で入試結果未公表でした。

3. 横須賀方面・湘南方面

<男子校>

栄光学園は聖光学院1回との間で受験生の流れが見られます。一昨年、昨年と前年並みの応募者数が続きましたが、今年は少し減っています。実際の受験者数も少し減って、合格者数は昨年並みですから、実質倍率は少し緩和しました。合格最低点は少し下がっていますが、高難度ですから、入り易くなったとは言えないでしょう。

逗子開成は、昨年までの4年間、各回次合計の応募者数はほぼ同じ水準が続きましたが、今年は少し減っています。少しずつ難化していましたから、安全志向の強まりでやや敬遠されたのかもしれませんが。2月1日午前の1次は昨年並みの合格最低点で、難度に変化は見られませんが、3日午前の2次、5日午前の3次は少し下がっていて、やや入り易くなったようです。

鎌倉学園の各回次合計の応募者数は、一昨年は少し減り、昨年は増加、今年はやや減っています。ただ、1日午後の算数選抜が増えて、4日午前の3次が減っていて、昨年とは逆の動きです。全体的な入試早じまい傾向の影響かもしれません。同校も1日午前の1次と算数選抜の合格最低点は昨年並みですが、2日午前の2次と4日午前の3次は少し下がっています。逗子開成と同じで、やや入り易くなったかもしれません。

藤嶺学園藤沢は帰国生入試の日程を変更しました。一昨年、昨年と、各回次合計の応募者数は前年並みが続きましたが、今年は少し減っています。実際の受験者数も少し減っていますが、合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

<女子校>

湘南白百合学園は、帰国生入試をオンラインに切り替えるとともに、2月1日午後の入試を算数1科から国算のどちらか選択にしました。帰国生入試を別とすると長い間1回入試を続けてきた同校ですが、一昨年複数回化に踏み切ってから応募者が大きく増加、昨年は反動で減少しましたが、今年は再び大幅に増加して隔年的な人気になってきました。新設された国語1科の合格最低点は算数並みの得点率、2日午前の英語資格入試が少し下がっていますが、こちらは得点分布の関係でしょう。全体的には難度にあまり変化はなかったようです。

鎌倉女学院はフェリス女学院をはじめとする神奈川県女子御三家の併願校です。2月2日の1次の応募者数は一昨年が減少、昨年は一昨年並み、今年は減っていて、4日の2次は一昨年、昨年と減っていて、今年も減っています。神奈川県女子御三家の定番の併願校でしたが、受験生の動きが変わってきたのかもしれませんが。昨年は、応募者が減っても合格最低点は1次・2次とも上がっていましたが、今年は少し下がっています。昨年は受験生が絞られて少し難化していましたが、今年は一昨年並みに戻ったようです。

清泉女学院は入試に特に変更点はありません。各回次合計の応募者数は、昨年まで4年連続で増加していましたが、今年は減っています。上がっていた人気が一段落したのでしょうか。合格最低点は2月1日午後、午後、2日午後入試は昨年並みですが、3日午後と5日午前は上がっていて、出題内容との関係ですが、後半は少し難化したようです。

聖園女学院は2回の帰国生入試を1回に統合しオンライン入試を新設したほか、2月1日午後の総合入試で2科を並行実施、2日午後は英語選択を英検利用に、3日午前の英検資格入試は2科に切り替えるなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年は減っていましたが、昨年は増加、今年はやや減って隔年的な変化です。実際の受験者数、合格者数も少し

減っていて、合格最低点は上下が見られる回次があるものの、得点分布の関係でしょう。難度はあまり変わっていないようです。

鎌倉女子大は国際教養とプログレスの2コース制です。以前は特進・進学の2コース制でしたが、一旦特進レベルに統一した募集とし、そのうえで一昨年から現在のコース制になっています。今年は2月10日の国際教養入試を4日午後に移すなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年が大幅な増加、昨年にもさらに増えていて、今年も大きく増えました。受験生に新コース制が浸透したほか、新校舎も人気の理由です。実際の受験者数、合格者数も増えました。合格最低点は公表されていませんが、両コースとも昨年並みの難度だったようです。

北鎌倉女子は小規模な入試の学校です。今年はエッセイ入試と英語プレゼン入試を増設、算数1科入試と日本語4技能入試の日程変更などが行なわれました。地域でのイメージ改善で、各回次合計の応募者数は今年で3年連続の増加です。実際の受験者数、合格者数も増えていて、欠席者の減少が目立ちます。今年も小規模な入試ですが、難度に変化はなさそうです。

聖和学院も小規模な入試の学校ですが、教科の入試だけでなくスピーチやプレゼンテーション型など、多彩な入試を実施しています。今年の一部の日程変更や科目の追加・変更、呼称の変更がありました。今年も小規模な入試で、合格最低点は科目選択によって上下が見られるものもありますが、得点分布の関係でしょう。全体的な難度は昨年並みだと思われます。緑ヶ丘女子も小規模な入試の学校です。今年は応募者が増えています、今年も小規模な入試でした。

<男女校>

慶應湘南藤沢は、一昨年は帰国生入試の男子の応募者がやや減ったものの女子は前年並み、一般入試は男女とも増加していて、昨年は帰国生男子が増加、女子が減少、一般入試は男子が減少、女子は一昨年並みでした。今年も帰国生男子が減ったものの、女子と一般の男女が増えています。もともと、一般はやや増えた程度で、実際の受験者数、合格者数は昨年並みです。1次合格者に2次試験を実施する2段階選抜で、補欠も出していて、もともと高難度ですから、難度はあまり変わっていないようです。

日大藤沢は昨年、併設小学校からの内部進学者が出るために募集定員を大きく削減、今年は2月2日午後に初めての午後入試を2科で新設しました。新設された2回は若干名募集ですが、1日午前の1回、4日午前の3回を上回る応募者数で、1回も昨年より大きく増えて、3回も増えています。女子よりも男子の増加が目立ちます。2回は若干名募集ですが、32名合格者が出ました。1・3回の実際の受験者数も増えていて、実質倍率は上昇、本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、難化した厳しい入試だったでしょう。

湘南学園は入試に特に変更点はありません。一昨年は各回次合計の応募者数が減少、昨年少し減って、今年も減っています。実際の受験者数も減っていますが、合格者数の減少はあまり大きくはありません。このため、実質倍率は緩和していて、合格最低点は各回とも少し下がっています。全体に少し入り易くなったようです。

横須賀学院は帰国生入試の日程を変更しています。各回次合計の応募者数は一昨年が増加、昨年やや増加していましたが、今年昨年並みです。しかし、実際の受験者数は増加しました。応募者数は変わらなくても志望順位が高い応募者が多くなっているでしょう。合格者数は昨年より絞っていて、合格最低点は2月1日午前の1次は昨年並みだったものの、同時実施の適性検査型や1日午後の1次Bは少し上がっていて、2日午後の2次と3日午後の3次ははっきり上昇しています。出題内容との関係はありますが、1次Aは昨年並みの難度、他の回次は少し難化したようです。

アレセア湘南は小規模な入試の学校です。今年2月5日午前・午後の入試を4日に繰り上げました。今年各回次合計の応募者数が昨年並みで、難度面もあまり変わっていないようです。

国立の横浜国大鎌倉は2月7・8日の入試を4・5日に繰り上げました。昨年、入試日程を一昨年までの2月2・3日から繰り下げたことで応募者数が大きく増えましたが、今年減っています。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は昨年並みで、合格最低点は公表されていませんが、少し入り易くなったかもしれません。

☆

4. 県央～県西方面

<女子校>

聖セシリア女子は帰国生入試の日程を変更したほか、2月1日午後のグループワーク型の読解・表現を適性検査とするとともに、3日午前に英語表現入試を新設しました。各回次合計の応募者数は一昨年が前年並み、昨年は増加しましたが、今年は減っています。一昨年並みの人数にも戻りました。合格最低点は昨年並みで、難度には変化がなかったようです。

相模女子大は2回実施しているプログラミング入試の日程や時間帯を変更しました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と前年並みでしたが、今年は減っています。共学校に受験生が流れたのかもしれませんが。合格最低点は未公表ですが、受験生が減った分、合格者も減っているため、難度面はほとんど変わっていないようです。

地域は離れますが函嶺白百合は入試に特に変更点はありません。今年も小規模な入試で、難度面はあまり変わっていないようです。

<男女校>

東海大相模は、2月4日のC入試を2科4科選択か

ら2科に変更しました。各回次合計の応募者数は、一昨年が増加、昨年は減りましたが、今年は昨年並みです。ただ、実際の受験者数は増えていて、合格者数は昨年並みでしたから、実質倍率は上がっています。合格最低点は公表されていませんが、やや難化したかもしれません。

自修館は特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者が一昨年、昨年と増加が続いていましたが、今年は減っています。人気が上がっていましたから、一段落です。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、平均の実質倍率は少し緩和していて、やや入り易くなったかもしれません。

地域は離れますが、相洋も特に入試に変更点はありません。一昨年は各回次合計の応募者数が少し増加、昨年はまとまって増えましたが、今年は減りました。人気が一段落したのでしょうか。実際の受験者数、合格者数も減っています。合格最低点は一部昨年との差が目立つ回次もありますが、得点分布の関係でしょう。各回次とも難度はあまり変わっていないと思われます。

MEMO